
リリカルなのはの世界に行ってみた

ネギ抜き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのはの世界に行ってみた

【Nコード】

N4039Z

【作者名】

ネギ抜き

【あらすじ】

最初に、

この小説は作者の気分転換と練習のために書いている小説なので不定期更新になります。
内容も南蛮戦時になるか分からない内容で唯書きたくなったから書いて投稿しているのでそこはご了承ください。

二次創作、リリカルなのはの転生チート物です。

途中で原作ブレイクする可能性が高いです。
作者はあまりリリカルなのはに詳しくないのでそこは勘弁してくだ
さい。

それでもいいという方だけお読みください。

1 見知らぬ女性にピコハンで叩かれました(前書き)

気分転換に書いた
後悔はしていない

1 見知らぬ女性にピコハンで叩かれました

「はじめまして、なのかしら?」

何もない。

今いる景色を一言で表すならこの言葉しかないだろう。

地面はもちろん空や地平線の先まで真っ白に染まっていて距離感が分からなくなりそんな世界。

その世界に立っている、完成された容姿と完璧な身体を持っているといつても過言ではないほどの女性が首をかしげながら目の前にいる男性に声をかける。

「……………???」

男性は目の前の状況についていけずただ放心している。

「うーん、私の声が聞こえてないのかしら?えいっ!」

女性は何処から取り出したのか、何時の間にか右手で持っていたピコピコハンマーで男性の頭を叩く。

「つつつ?!」

しかし、その可愛い掛け声とは裏腹に叩かれた男性は頭に強い衝撃を受けるとそのまま約2メートル程先まで転がって行く。

「あつ、力加減間違えちゃった?てへぺろ」

「間違えちゃった?てへぺろ、じゃないだろおおおおおおお!

「！」

女性の言葉に覚醒した男性が立ち上りながら大声でツツコミを入れる。

「あら、私のおかげで目が覚めたでしょ？」

「なに開き直ってんじゃああああ！何処の世界に目を覚ます為だけに2メートルも吹っ飛ばすバカがいるんだ！一歩間違えてたら死んでたぞ！？」

「ここにいるじゃない？こ・こ・こに」

「何でも可愛く言えば済むと思ってるんなよ？こっちは命がかかってんだ！」

「あつ、その事なんだけど貴方もう死なないわよ？」

「……………はっ？」

男性は女性の言っている事が理解出来ず聞き返す。

「だから、もう死なないって言ってるのよ。だって、もう死んでるもの」

「……………ああ、そういう事ね。きつと俺夢見てるんだな。そういえば最近転生系ファンタジー小説ばっか読んでたからこんな夢見てんだな？ああ、ついに夢に見る位に影響が出ちゃったのか？よし、明日から自重しよう！」

「現実逃避してる所悪いけどあなた本当に死んでるわよ？」

「……………マジで？」

「マジです！」

「……………何で？」

「あなた結構食生活気にしてなかったでしょ？いわゆる生活習慣病みたいな感じで心筋梗塞でポツクリとね」

「……………実際は？」

「ミスっちゃった」

「……………。なあ、その手にあるハンマー貸してくれないか？」

「いいけどどうするの？」

女性は手に持っていたピコピコハンマーを渡しながら尋ねる。

「どうするに決まってるんだろ！」

男性はハンマーを受け取ると思い切り振りかぶって女性を叩いた。

「ピコッ（ピコッ）キヤアアアアアア」

女性はその勢いそのままに地面？を転がって行く。

「痛いじゃない！私を誰だと思っているのよ！！！」

女性は立ち上がると男性の元に戻って戻ってきて文句を言い出した。

「あんたが誰だろうが知ったこっちゃねえよ！借りにあんたが神様だったらこの落とし前どうつけてくれんだよ？俺の命だぞ？！まだ読んでる途中だったライトノベルとか漫画とかまだ見ぬ作品達を楽しむ時間を奪ったんだぞ？！」

「うっ、それは悪かったわよお……だからこうやって直接謝罪に来たんじゃない」

男性の剣幕に圧された女性が身体を縮こませて泣き声になりながら答える。

「謝罪なんていらぬから今すぐ俺を生き返らせる！早く！Har ryp……！」

「それは無理なんだってば……借りに元の世界に生き返っても人として生き返る確率は1パーセント以下なのよ？良くて動物、悪くて植物やミジンコ、アメーバや細菌になる可能性だってあるの。それでもいいの？」

「まじかよ……… そしたら、どうやって解決してくれるんだよ？」

「グスン、今私の知り合いにいくつか世界に干渉出来る人がいるからその人をお願いして貴方をその世界に転生してもらおうと思ってるのよ」

「……………その世界はどの世界なんだ？地獄とは言われたらまたピ

「コピコハンマー《これ》で叩くぞ？」

「そんな酷い事はしないわよ。確か3つの世界で、
1つ目が、「魔法先生ネギま」の世界

2つ目が、「魔法少女リリカルなのは」の世界

3つ目が、「機動戦士ガンダム」の世界ね。

飛ぶ時間軸は指定出来るらしいわよ」

「(クツッ)、絶妙な所を選んできやがる！これは迷うなあ」

男性は女性言った世界に迷っている。

「ネギま」と「なのは」は、魔法系の漫画の中でもトップクラスに好きな作品。

「ガンダム」は、はっきり言って男の子の夢と言っても過言ではない作品。

「なあ、全部って選択はダメか？」

「うーん、こうやって別世界に転生させるだけでも初めてだから前例がないのよ。その時になってみないとわからないわ」

「(わからない、か。そしたら行けないものだと考えた方がいいな。
……………あっ！)」

「どうしたの？もう決まった？」

「なあ、転生する時には勿論能力とかの設定も出来るよな？」

「ええ、出来るわよ？」

「どんな能力、設定でも？」

「勿論よ。今回の原因は私だしそこらへんは私がしっかり責任を持つわ」

「分かった。もう少し考えさせてくれ」

「（うーん、やっぱり迷うなあ。能力もチートに出来るって事も確認出来たしな）ヤツベ、生きてた時にどのグッズ買うか迷った時よりも迷ってるかも）」

それから1時間後。

「よっし！決めた！前々からリインフォースの所とか気になってたしなのはの世界に行こう！そして、男の夢を叶えよう！」

「（あんだけ悩んでたのに最終的な理由がハーレムを作るなんて…）」

女性は、目を輝かせながらしょうもない事を言っている男性を見ながら思っていた。

2 見知らぬ女性にチート能力の許可をもらいました

前回のあらすじ

神様？（女性）のミスで死んでしまった男性は、転生先に魔法少女リリカルなのはの世界を選ぶのだった。

「それで、能力はどんな感じにするのかしら？」

「そうだなあ、

まず、魔力ランク、身体能力、気？の力、思考能力？をEXランクでよろしく！」

後は、自分でデバイスとか作りたいからミッドとかの歴史とか知識も欲しいな」

「……………」

男性が楽しそうに話しているのを女性は無言で聞く。

「後は、どんな状況になるか分からないから知識にある技やアイテム、能力は何時でも使えるようにしておいて。

勿論、幻想殺し《イマジンプレイカー》みたいに他の能力を打ち消すような自分に害がある効果は自分に発動しないように設定もよろしくー！」

「……………」

「後は後は、歳が22歳になったら不老になるように設定しておいてね」

「……………それで全部なのかしら？」

「いや？とりあえず、俺が好きに使えるお金とデバイスを作るのに必要な道具、パーツも揃えて欲しい」

女性は一つため息をついた後に男性の要望について答える。

「分かったわ。でも、あなたには一般家庭に赤ちゃんから転生して貰うから道具とかは後日送るわね？連絡先は他の知識と一緒に貴方の脳にインプットしておくからそこから連絡して頂戴」

「分かった。何から何まで悪いね」

「そんな事全く思っていない癖に……………」

「そんなことないよ？俺的には本当に意見全部了承して貰えるとは思ってなかったからね。何かしら能力に制限とかつけられると思っただけだからな」

「それを確認する為にさっきの質問してきた癖に。自分の言った事にはしっかり責任を持つって言ったでしょ？」

「ああ、そうだったな。それじゃあまた連絡する」

「ええ。第二の人生を頑張ってるね。前世みたいに過去に後悔しないようにしっかりやってきなさい！」

「……なんか母さんみたいな事言っただな」

「なに言ってるのよ。私は神様何だから全ての生命の親でしょ？だから母であってるのよ」

「そうか……そうだな！それじゃあ話はこれ位にして、いつてくる
！」

「行ってらっしゃい！私は何時でも貴方を見守っているわ」

女性が言葉をかけながら手を男性に向ける。

その手が光り出すと男性の身体も呼応するように光り出し数秒後男性の視界は白い光に埋め尽くされた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4039z/>

リリカルなのはの世界に行ってみた

2011年12月15日00時50分発行